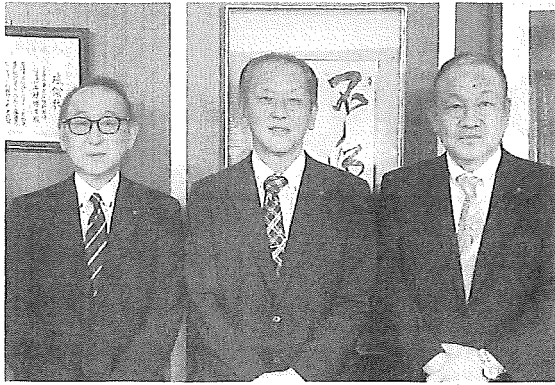


全運協・長嶋新会長

2 共済との連携に決意

本紙訪問



④本紙を訪れた(右から)板橋顧問、長嶋会長、小松専務理事⑤本紙の仁平社長(左)と業界の課題などで懇談した(7月28日、東京・新宿)

全国運転代行協会の長嶋幹男会長(ジェイ・ディ共済協同組合理事長)と前会長の板橋勇二顧問(東武代行代表・宇都宮市)、小松英樹専務理事は7月28日、就任あいさつのため、東京・新宿の東京交通新聞社を訪れ、業界の健全化・活性化に向けた決意を本紙の仁平英紀社長に伝えた。長嶋会長は「JDI共済、全代共

済(全国運転代行共済協同組合)と情報共有を深めながら、業界を活性化させた」と語った。

3人は6月の通常総会で現職に就任。全代共済の佐野朝明理事長(セブ代行代表・山梨県甲斐市)は副会

長に就いた。

本紙訪問で長嶋会長は、新型コロナウイルス禍以降、事業者数や随伴車の台

数が減少していることを憂慮。「コロナ前の規模に回復できるよう、環境を整えなければならぬ。業界が一つにまとまることが大切」と強調した。最低利用料金の設定の必要性も訴え、「お客からの値引き交渉が当たり前になっている。安価で使えるのはいいが、運転代行の経営が成り立たない。利用者への啓発も課題になる」と指摘した。

同会長は、JDI共済の本部がある富山市を拠点に活動する考えで、「東京まで新幹線で約2時間。日帰り出張が可能」と話し、省庁との折衝などで上京する際も特に支障はないようだ。運転代行業を営んでいない員外の立場だが、地元・富山では代行をよく利用しているといい、「現場に携わる従業員の声を聞き、事業戦略の参考になっている」と口にした。